

● 経済用語・データのいみ ●

## 「マネタリーベース」

去る6月、日銀は金融政策決定会議で金融緩和策の現状維持を決めました。「消費者物価指数の前年比上昇率（実質値）が安定的に2%を超えるまで、マネタリーベースの拡大方針を継続する」としています。

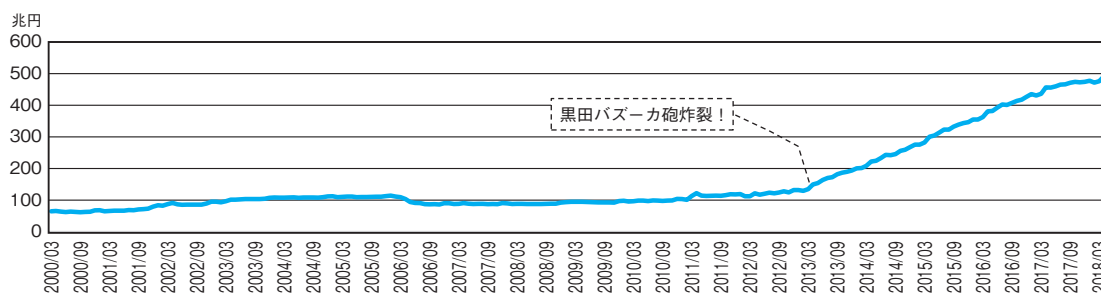
### 1. 「マネタリーベース」とは？

マネタリーベースとは、「日本銀行が供給する通貨」のことです。具体的には、市中に出回っているお金である流通現金（「日本銀行券発行高」+「貨幣流通高」と、金融機関が預金の払い戻しなどに備えて日銀に預けている「日銀当座預金」の合計値です（日銀 HP より）。

不景気の状況下では、日銀は金融機関が保有する国債を買い上げ、マネタリーベースを増加させて経済を刺激しようとしています。逆に景気が過熱していると判断したときは、日銀が保有する国債を金融機関に売り払うことで資金を吸収します。これらの操作により経済の安定成長を図ります。

2013年4月の日銀政策委員会・金融政策決定会合で、黒田日銀総裁は「これまでとは異次元の量的・質的金融緩和を行う」としました。「黒田バズーカ砲」と呼ばれるものです。図表1は2000年以降のマネタリーベース（平均残高）の推移を表したものですが、2013年3月に134兆4千億円であったものが翌月以降急激に増加、直近の2018年5月では492兆9千億円と、約3.7倍もの規模となっています。

図表1 マネタリーベースの推移



日本銀行関連統計「マネタリーベース」より

### 2. マネタリーベースとマネーストックの関係

「マネー」がつく経済指標として「マネーストック」があります。マネーストックについて、日銀は「金融部門から経済全体に供給されている通貨の総量」としています（日銀 HP より）。具体的には、一般法人、個人、地方公共団体などの通貨保有主体（金融機関、中央政府を除いた経済主体）が保有する通貨の残高を集計しています。

マネタリーベースとして銀行など民間金融機関にお金が供給され、それを基に銀行は企業などへ融資を行います。融資金は企業の預金口座に入金され、さらにその資金が銀行の融資の原資となり別の企業へ融資され、融資金はその企業の預金口座に入金され…と、お金がどんどん循環していきます（銀行の信用創造機能といいます）。2018年5月のマネーストックは1,743兆5千億円と、同時期のマネタリーベースの約3.5倍の規模となっています（図表2）。マネタリーベースは「信用創造の基礎となるお金」で

マネーストックは「信用創造によって生み出されたお金」ということができます。

図表2

	マネタリーベース(A)	マネーストック(B)	B ÷ A
2018年5月	492兆9千億円	1,743兆5千億円	3.54

### 閑話ひとつ

- ▶先日、柴咲コウさんの「月のしずく」を聴いていると「下弦の月が〜」という歌詞が出てきました。「上弦の月、下弦の月って、どっちがどっちだっけ…？」そこで調べてみました。新月から満月の間の半月を上弦の月、満月から新月の間の半月を下弦の月と呼ぶとのこと。「今はどっち？」という時、簡単に見分ける方法は「上弦の月は昼頃に昇り真夜中に沈む、下弦の月は真夜中に昇り昼頃に沈む」だそうです。夕方仕事帰りに見える半月は上弦の月ということですね。
- ▶月といえば、以前見たテレビで、A4のコピー用紙1枚で月に行く方法を考えるというのがありました。月までの距離は約38万kmですが、答えは「43回折る」でした。コピー用紙の厚さを約0.08mmとして、これを折り続けると42回目で約35万km、そして43回目で約70万kmの厚さになるのだそうです。実際に試してみましたが、6回が限界でした。しかし「昨日までの常識は今日の非常識」、そのうち簡単に月に行ける日が来るのでしょうか。（MK）